

1. 道徳の時間の学習で心に残ったこと

~その思いを受けついて~

じいちゃんと子どもとのきずな、思いやりが見えたから。

今まで支えてくれた子どもへの^{強い}思い、1か月前先の誕生日の手紙、相手のことを思っていないとできないことだから、いいなと思った。子どもが「じいちゃんの大好きな温泉に連れて行ってあげるよ。元気出して、かんはるんだよ。」って言うから、「弱い力で手をにぎり返してから天国へ旅立った。」って言うところが、最後の力をふりしぼったから思いはとどいたんじゃないかなーと思う。だから、自分も、相手のことを想うことの大切さ、気持ちを考えることを意識できた。

2. ご家庭の方から

1か月前の誕生日の手紙は、「もう自分の命は長くないかも」という思いと「大30人の誕生日まで生きていたい」という願いもこもっていたのかもしれない。お父さんのお母さん（おばあさん）は、生まれる前に病気で世を去りました。大30人のおじいさんと一緒に痛みで意識がもうろうとして走らあがるお母さんも困難な状況で最後の最後にベッドから降りて立ち上がり、そして瞬間に意識を失い息をとりました。最後の力をふりしぼって「強く生きていく」「大変なことがあるも何んでも立ちあがるよ」とその後で教えたよは気持ちにはなりました。今、おじいさんも病気でたまたまいます。遠くすぐにお見舞いしたいのですが、いつもたまたま元気でいるか心配しています。たまたまのこれからの成長も楽しみにしています。たまたまのあなたが生き希望になっています。お母さんの言葉の力から感じたように、たまたまの思い、たまたまの思いを寄り止めることが、生きていくことには必要です。